



鹿児島県護憲平和 フォーラム情報



NO—182 2025 年 8 月 1 日

発行：鹿児島県護憲平和フォーラム Email:info@k-peace-forum.org
連絡先：鹿児島市鴨池新町 5-7 TEL 099-252-8585 FAX099-258-4560

参院選に感じた危機感

投票率が 20 年ほど前の水準に戻った今回の参院選。有権者の政治への意識の高まりだと言われますが、様々な視点からの検討が必要だと考えます。とりわけ参政党をはじめ、自民党や日本保守党、N 国党等が外国人叩きを公然と発言したことは衝撃的でした。差別と分断を助長するかのような政策の主張が顕著でしたし、それを支持する人々が増えたのでないかと懸念を覚えました。

そもそも日本経済が落ち込んだのは外国人のせいではなく、政治の失敗です。少子化で働き手が不足して外国人労働者に頼らざるをえなくなったのも政治の失敗です。政府や経営者が非正規雇用を拡大させて労働者の賃金を抑え込んできたことは一顧だにされず、あたかも外国人労働者が増えたことに責めが求められました、春闘によって大幅な賃金上昇を勝ちとつても実質賃金はマイナスを続けています。そんな国民の不満と不安につけ込むようにして「悪いのはあなた(日本人)じゃないよ」とささやき、「日本をなめるなよ」と外国人を敵味方の二項対立の構図に置くことは分かりやすく、国民は批判的思考を停止させられたのではないかと思います。外国人による犯罪の検挙率や留学生の国庫負担の現状が示されることはなく「怖い」「悪い」というイメージがふりまかれ、国民の不満のはけどころとして非常に魅力的に映ったのではないかと思います。さらに、ネットのアルゴリズムも手伝ってフィルターバブルに包まれ、それが桁違いにバズり、外国人叩きはたちまちネットのトレンドになりました。有権者が政策的にきちんと判断したのではなく、ネット社会のしくみによって、そう思わされてしまった面があったのではないかと思います。

副代表 中川路 守

「外国人」という属性を以て不満のはけどころを作るという発想は極めて危険です。今回の選挙戦で訴えられた政策において属性にもとづく線引きは「外国人」だけでなく、高齢者、LGBT 等もありました。分かりやすいレッテルを相手に貼って「あいつは敵」と決めつけます。これが参政党においては顕著でした。「日本人ファースト」が、やがては「若者ファースト」「健常者ファースト」等「〇〇ファースト」が増え、どんどん「線引き」が強まっていく。既に「線引き」は始まっていると思った方がいいと思います。「自分に関係ない」と思っている内に気がついたら「線の外側」にはじかれていた。参政党に限らず、社会の分断につながりかねない政策主張に対しては、きっちり批判をしていかなければなりません。いろんな属性があっても、お互いに建設的なコミュニケーションをつくっていく社会こそが大事です。ドイツの牧師マルティン・ニーメラーの詩を思い出します。「ナチスが共産主義者を連れさったとき、私は声をあげなかった。私は共産主義者ではなかったから。彼らが社会民主主義者を牢獄に入れたとき、私は声をあげなかった。私は社会民主主義者ではなかったから。彼らが労働組合員らを連れさったとき、私は声をあげなかった。私は労働組合員ではなかったから。そして彼らが私を連れさったとき、私のために声をあげる者は誰一人残っていなかった」と。ニーメラーが周囲の状況に不安を覚えつつも声を上げられなかったという状況は、まさに「外国人叩き」を主張する政党が勢力を伸ばした今の日本社会と同じではないでしょうか。



第 61 回原水爆禁止鹿児島県民会議総会及び

第 17 回鹿児島県護憲平和フォーラム総会開催

第 61 回原水爆禁止鹿児島県民会議及び第 17 回鹿児島県護憲平和フォーラム総会は、6 月 28 日（土）13 時から県労働者福祉会館 7 階ホールで開催されました。

開会のあいさつと総会議長選出まで、共同代表の下馬場副議長が行い、総会議長に全水道の前野代議員、市立病院の新宮領代議員、議事運営・資格審査委員長に社青同の内匠代議員、委員にかごしまフォーラム森山代議員、鹿児島地区高退協の中島代議員、選管委員長に全労金労組の村山代議員、委員に林野労組の小薄代議員、アイ女性会議の徳満代議員、国労地区本部の川上代議員を選出しました。はじめに、代表あいさつで平井共同代表が「今年は、村山談話から 30 周年。村山氏は、日本による植民地支配と侵略戦争の加害の責任と謝罪についてより踏み込んだ談話を発表しました。その内容は閣議決定され、政府見解として重みをもちます。保守派にとって苦々しいこの談話を忘却の彼方に追いやってはなりません」と、訴えました。次に、来賓あいさつで、連合鹿児島の下町会長は「7 月の参議院選でも、自公を過半数割れに追い込むことが重要」として、連合が推薦する「おつじ ともみ」候補への協力を要請しました。次に、2024 年度の活動報告と財政報告を執行部が行い、承認されました。議事に入り、2025 年度の活動方針(案)と予算(案)が提案され承認されました。次に、第 3 号議案「会費の改正(案)について」提案のあと質疑応答に移りました。たくさんの質問がある中で「今後の各ブロックの財政や活動に不安があること」「執行部の説明不足」を問う声が多く出され、第 3.4 号議案を執行部が取り下げ、採決に至りませんでした。今後の重要な運動を進めるために、財政が厳しくなる中、いい解決策を見いだすために、執行部の丁寧な説明が求められました。

協議に時間を要したことから、新役員の選出を選管が、総会スローガンを議長団が読み上げ、総会宣言は、時間の都合で前文を省略して読み上げて承認されました。最後に、上猶副代表の「団結がんばろう」三唱で、閉会しました。2025 年 10 月からは、2000 人の会員減少となります。県フォーラム・原水禁の活動の歩みを止めないように、今後、県内で軍事基地強化が進む現状に、私たちの活動の重要性が問われます。



オスプレイ配備反対佐賀集会開催

7 月 9 日に、陸上自衛隊オスプレイ配備のための「佐賀駐屯地」が開設されるのを前に、30 度を超える炎天下の 6 月 21 日、佐賀の市民団体「オスプレイ裁判支援・市民の会」主催の反対集会とデモ行進が佐賀空港横グラウンドで開催され、佐賀平和運動センターの要請を受けてこの集会に参加してきました。

はじめに「市民の会」共同代表で、佐賀大学の「吉岡 剛彦」教授が「佐賀空港を利用する中国人観光客が増える中、敵対心をむき出しにしたオスプレイを見せつけるのは賢明ではありません。

佐賀にも、日本のどこにも欠陥機オスプレイはいりません」とあいさつしました。次に、地元のノリ漁師で、駐屯地工事差し止めを求める訴訟を起こしている「古賀 初次」さんが「2020 年 8 月に県知事は、佐賀空港建設時に漁協と結んだ『空港を自衛隊と共用しない』との覚書を反故にしました。また、防衛省が地権者を金で釣りと、欠陥機オスプレイまで持ってくることは耐えられません。駐屯地が開設されるこれからが本当の闘いです」と、今後の運動への協力を参加者に訴えました。参加者は「佐賀空港の軍事化と、軍用航空機の一切の配備に反対」との集会アピールを採択し「オスプレイ NO!」のプラカードを掲げて往復約 3.5 キロを歩き、工事が進む駐屯地のゲート前でシュプレヒコールを上げました。

防衛省は佐賀空港に、陸上自衛隊オスプレイ 17 機と時期は未定としながら、目達原駐屯地（佐賀県吉野ヶ里町）からのヘリ約 50 機も移駐する計画を発表しています。佐賀駐屯地は、空港西側で建設工事が始まって 7 月 12 日で 1 年となります。地上からでも 8 階建ての隊舎の骨組みや複数のクレーンが確認でき、空港ターミナルを大きく上回る広さの新駐屯地の全容が、空港の横にあるグラウンドからはっきり見えました。

陸自オスプレイは有事の際、長崎県佐世保にある相浦駐屯地の離島防衛専門部隊「水陸機動団」を南西諸島に輸送する役割を担うことになっています。木更津での暫定配備の期限は今年の 7 月で、駐屯地建設をめぐっては、工事差し止めを求め、地元の漁業者らが国を相手取った訴訟も佐賀地裁で争われています。

鹿児島では米軍のための「馬毛島基地建設」が強行されています。基地が完成する 2030 年以降は、神奈川の横田・山口の岩国・沖縄の嘉手納・普天間基地をはじめ佐賀空港のオスプレイ、福岡の築城・宮崎の新田原・長崎の相浦基地など、全国からの訓練が拡大することが予想されます。全国の仲間と共闘して、反対運動にとりくまなければなりません。

県フォーラム・原水禁 磨島 昭広



参加者 600 人・炎天下「怒りの集会」



大隅ブロック非核平和行進

大隅ブロックは、7 月 17 日（木）～18 日（金）2025 平和行進（自治体要請行動）を 17 日曾於市—志布志市—大崎町—東串良町—肝付町 18 日南大隅町—錦江町—鹿屋市—垂水市と 2 日間にわたり実施しました。県フォーラムの下馬場代表にも同行頂き、反核・反原発・反軍拡を訴えました。2 日目の 18 日は、鹿屋市と錦江町間の国道で土砂崩れがあり通行止めになる中、迂回路での訪問となりましたが、事故もなく、要請行動を終了することが、出来ました。御協力を頂いた皆様に感謝申し上げます。



始良伊佐ブロック非核平和行進

7 月 23 日（水）、始良伊佐ブロック平和運動センターでは、霧島市・湧水町・伊佐市・始良市へ議会と市当局を訪問し、核廃絶・平和行政の要請及び取組みを点検しました。今年には戦後 80 周年を迎えます。市町では平和への展示や原爆が投下された日において、黙とうを行うなど取り組んでいましたが、被爆者や 2 世などに対する相談窓口がないことや、地域に住む被爆者の人数は確認しておりませんでした。核兵器廃絶や脱原発・エネルギー政策転換に向けて、自治体が果たす役割は重要なため、平和行政に対する更なる理解と支援を求めました。



坂谷議長様（霧島市） 福本議長様（伊佐市）

北薩ブロック非核平和行進

7 月 15 日（火）、薩摩川内市・さつま町・阿久根市・長島町・出水市と管内を街宣しながら回りました。各自治体では、非核要請をすると同時に、川内原発についての話し合いも行いました。充実した非核平和行進になりました。

8・15 不戦を誓う日の集会

日時 8 月 15 日（金）18：00～20：00
会場 イオン鹿児島中央駅前店「よかセンター8 階」
講師 大山正一（鹿児島県被爆二世の会・会長）
演題 被爆・敗戦 80 年 ヒバクシャ・被爆二世の歴史と課題
主催鹿児島ブロック護憲平和フォーラム 099-255-3338

